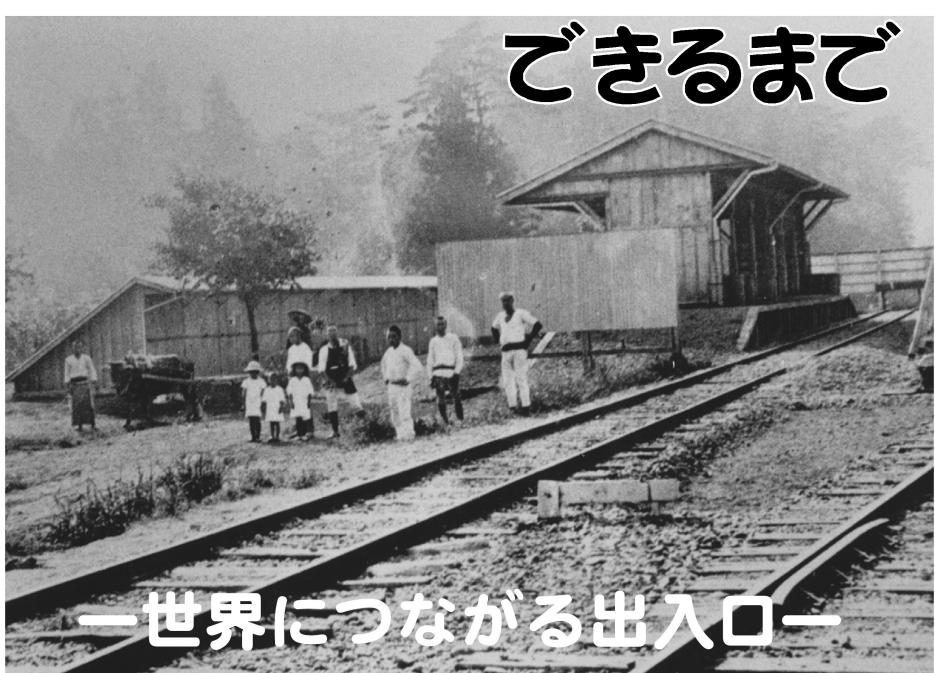


『みずほ台駅』の

ごきるまご



一世界につながる出入口

し尿の積み降ろし仮設ホーム(昭和2年)

現在の東武東上線の前身である東武鉄道株の東上線は、大正3年(一九一四)5月に開通し、「池袋」から現在の川越市駅と霞ヶ関駅の中間にあたり、「田面沢駅」間の33・5kmをつなぎました。途中の停車駅は、下板橋、成増、膝折(現朝霞)、志木、鶴瀬、上福岡、六軒町(現川越市)でした。ダイヤは、大正7年ごろは上り下りともに2時間に1本程度で、単線で蒸気機関車に繋がれて、池袋と鶴瀬間を1時間で走行したと記録にあります。



柳瀬川をわたる大正時代の東上線

その後、大正9年(一九二〇)、東武鉄道株と合併して東武東上線となる経緯をはさんで、この鉄道は次のように延長を続けて発展して行きます。大正4年現川越駅が完成大正5年坂戸町まで延長。同年小川町まで延長され、全長75・2km

馬車や大八車、リヤカーを使つたり、天秤棒で荷つて畑まで運び、野壺で発酵させて肥料としました。このはじめてのホームは、昭和13年に戦争の影響を受けて、残念ながら廃止されてしまいます。戦中・戦後を通して、東上線は食糧難対策の「買出し」の人々に利用されて、通称「イモ列車」と呼ばれる活躍ぶりでした。

客車が主流となつていきました。同年小川町まで延長。同年小川町まで延長。同年小川町まで延長。

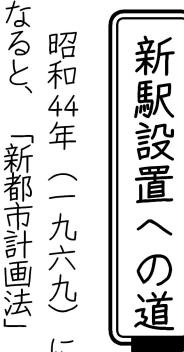
昭和28年(一九五三)には志木・川越間の複線化実施が決定され、29年11月に完成しています。東武鉄道は志木・川越間の複線化への協力を得て、3813坪の土地を取りまとめて「駅予定地」として東武鉄道に売り渡しました。東武鉄道は沿線開発促進の方針について住宅公団と提

新駅設置の運動

昭和28年(一九五三)には志木・川越間の複線化実施が決定され、29年11月に完成しています。東武鉄道は志木・川越間の複線化への協力を得て、3813坪の土地を取りまとめて「駅予定地」として東武鉄道に売り渡しました。東武鉄道は沿線開発促進の方針について住宅公団と提



みずほ台駅新設工事 東武博物館所蔵



新駅設置への道

新駅設置への道

昭和44年(一九六九)になると、「新都市計画法」

新駅設置へ

参考文献
*協力 東武博物館
**「ふじみネット会議室」
*「東武鉄道百年史」
**「富士見市史 通史編下巻」

昭和56年には橋上駅舎となり、また大学も近い駅として周辺は大幅に開発され、現在は1日に乗降客4万1千人が利用する駅となっています。

水谷公民館だより

編集 水谷公民館だより編集委員会

発行 富士見市立水谷公民館

富士見市水谷1-13-6 TEL049(251)1129・FAX049(255)9886

編集委員 前田 水谷公民館だよりのホームページ <http://www.geocities.jp/kouminkandayori>

私たちの水谷地区と世界を結ぶ出入口は、東武東上線の『みずほ台駅』です。

東上線は、大正3年(1914)から開通していましたが、志木から鶴瀬までの間に停車場のない、貨物輸送が中心の鉄道でした。

この鉄道を私たちの水谷地区で利用できるための運動は、まだ単線の昭和28年(1953)頃から始まり、25年目の昭和52年(1977)10月に新駅が設置されて実りました。

何気なく利用している鉄道の恩恵を、もう一度考えて見ましょう。
(取材協力 東武博物館) 担当:前田 川上 戸塚

東上鉄道の発展

となり、国有鉄道の八高線と接続することになります。

このような延長工事が一段落した昭和初期には、この鉄道の複線化と電化の要望がよせられましたがその背景は、折からの首都東京の大発展と密接にかかわっているものでした。

段落した昭和初期には、この鉄道の複線化と電化の要望がよせられましたがその背景は、折からの首都東京の大発展と密接にかかわっているものでした。

仮設ホームの「ばんたろう」

昭和2年(一九二七)、この水谷地区に「駅」ができます。といつても乗客や貨物用でなく、東京から肥料の原料用として運ばれてくる「し尿」の積み降ろし専用の仮設ホームでした。

昭和2年(一九二七)、この水谷地区に「駅」ができます。といつても乗客や貨物用でなく、東京から肥料の原料用として運ばれてくる「し尿」の積み降ろし専用の仮設ホームでした。

馬車や大八車、リヤカーを使つたり、天秤棒で荷つて畑まで運び、野壺で発酵させて肥料としました。このはじめてのホームは、昭和13年に戦争の影響を受けて、残念ながら廃止されてしまいます。戦中・戦後を通して、東上線は食糧難対策の「買出し」の人々に利用されて、通称「イモ列車」と呼ばれる活躍ぶりでした。

馬車や大八車、リヤカーを使つたり、天秤棒で荷つて畑まで運び、野壺で発酵させて肥料としました。このはじめてのホームは、昭和13年に戦争の影響を受けて、残念ながら廃止されてしまいます。戦中・戦後を通して、東上線は食糧難対策の「買出し」の人々に利用

新駅の期待

戦後の昭和26年(一九五二)には、この「し尿積み」と接続することになります。

この「し尿積み」と接続することになります。

</

